

コンテンツ・日本ブランド専門調査会コンテンツ企画WG（第3回）メモ

2007.12.4 浜野保樹

・海外市場データの整備

データを体系的、定常的に収集できる制度を確立する。

海外データだけでなく国内データに関しても十分とはいえない。

・海外に出て行くことと、海外から引き入れることのバランス

海外展開とともに、海外から内に引き入れることも重要。

新しい表現を触発するためには、異文化の多様な人々との協調が必要。

コンテンツは日本語でも学びたい領域であるため、「日本への留学」は、そのためにも重要な手段であるが、要件となる日本語学習機会が先細りの状態にある。海外の高等教育機関は中国に研究の力点を移しているため、高まっている日本語学習熱にも対応していない。日本からの何らの支援が必要。

たとえば、過去の海外の映画祭の記録を見ると、日本語から翻訳した字幕がほとんど意味をなしていないという記述が多くみられ、日本語を理解できるコンテンツの外国人の専門家を育成する必要がある。

・フェアユースについての検討

非営利の教育目的なら著作物の使用許可を緩やかにするフェアユースのような制度がなければ、コンテンツに関する教育は実現できない。日本の著作権制度の中で、フェアユースが可能かどうか検討を開始してほしい。

・UCCの社会制度の整備

コンテンツ制作環境が整い、UCC（User Created Content）と呼ばれる個人表現も容易となっているが、UCCの急増に応じた表現倫理や、表現の自由を維持するための責任など、社会制度が対応できていない。

義務教育で教えられることが望ましい。

以上